

## 2019 年度春学期 研究者交流支援制度 (Researcher Mobility Grant)

### 実施報告書

商学部専任教授 村田 潔 (招聘責任者)

#### 招聘された外国人研究者

氏名 : Fareed Ismail Ben-Youssef

所属・職格 :

Teaching Fellow at New York University Shanghai, Shanghai, China (2019 年 7 月 31 日まで)

Assistant Professor at Texas Tech University, Lubbock, USA (2019 年 8 月 1 日から)

滞在期間 : 2019 年 7 月 10 日～2019 年 8 月 9 日

#### 講演

- (1) 日本情報経営学会「AI 人工物の監理」研究部会 公開研究会 (研究者・実務家・大学院生対象)

日時 : 7 月 13 日 (土) 14:00～15:30

場所 : 明治大学駿河台キャンパス 研究棟第 3 会議室

演題 : 'Dave, my mind is going': AI and robotics from a film and media perspective

参加者数 : 18 名

- (2) 公開講義 (学部学生対象)

日時 : 7 月 17 日 (水) 13:30～15:10

場所 : 明治大学駿河台キャンパス リバティタワー1083 教室

演題 : How a Batman mask resists a surveillance state: The revolutionary potential of a secret identity

参加者数 : 98 名

- (3) 公開講義 (大学院学生・研究者対象)

日時 : 7 月 19 日 (金) 13:30～15:10

場所 : 明治大学駿河台キャンパス グローバルフロント 404A 教室

演題 : 'Beautiful, isn't it?': Surveillance capitalism across film and media

参加者数 : 9 名

#### 実施概要

Fareed Ben-Youssef 氏は、上記滞在期間に、明治大学ビジネス情報倫理研究所 (駿河台キャンパス グローバルフロント 408G 研究室) において招聘責任者である村田と「情報倫理へのフィルムスタディーズアプローチ」をテーマとする共同研究を実施した。この研究は、AI

やロボットをはじめとする先端的情報通信技術の開発と利用、普及が人間存在や社会、経済、政治に対して持つ意味を日米の映画を題材とするフィルムスタディーズの視点から解明しようとするものである。すでに、並外れた能力を持つ映画のスーパーヒーロー（バットマン、スーパーマン、デアデビル）の自警主義的行為の視点から現実のセキュリティ政策を批判的に検討する共著論文“Superheroes on screen: real life lessons for security debates”（他に Andrew A. Adams と Bruce Schneier が共著者）が、本年 9 月に *Security Journal* 誌にオンライン掲載（<https://doi.org/10.1057/s41284-019-00193-7>）されるなど、本研究は情報通信技術の開発と利用に関する人文社会科学的研究アプローチの一つの新しいあり方を示すものとなっている。また、本滞在研究期間における議論に基づいて作成した共著論文“Capturing the trap in the seemingly free: Cinema and the deceptive machinations of surveillance capitalism”（他に Andrew A. Adams が共著者）が、2020 年 6 月に開催される情報倫理の国際会議 ETHICOMP 2020（<https://www.unirioja.es/ethicomp/2020/>）での研究報告論文として受理されており、Ben-Youssef 氏の明治大学での滞在中に、着実な研究の進展が実現された。また 8 月 1 日（木）に、河瀬直美監督作品「あん」の舞台となった国立療養所多磨全生園を訪問調査し、入所者への聞き取りを行い、資料収集を受けることで、国家ならびに民間組織による情報管理の負の側面に着目した研究テーマに取り組むこととなった。

Ben-Youssef 氏は、上記のように、本滞在研究期間中に 3 回の講演を行い、いずれにおいても参加者の多大な興味を引き出し、活発な質疑応答へと結びつけた。日本においては、フィルムスタディーズ（film and media studies）を実施している研究者は非常に少なく、またそれを情報通信技術の開発と利用に関連づけて研究している例は存在していない。そのため、Ben-Youssef 氏の講演を含む日本での滞在研究活動は、学術的にも非常に有意義なものであったと評価できる。